

裏表紙

表紙

### 医療法人 浩治会が運営する施設

当法人では、下記の介護施設、支援事業所などを運営しております。  
ご質問・ご相談などは、各施設のQRコードよりHPにお入りいただきお問い合わせいただくか、記載されているお電話番号までご連絡いただけますようお願いいたします。

- 介護老人保健施設「大今里ケアホーム」
- 居宅介護支援事業所「大今里ケアプラザセンター」
- 認知症対応型共同生活介護「グループホームゆめの里」
- 介護職員初任者研修事業所「大阪ケア学院 (今里校)」

〒537-0014 大阪府東成区大今里西2-17-16 TEL:06-6975-3090  
(グループホームゆめの里 TEL:06-6975-3088)

- 介護老人保健施設「大阪ケアホーム」
- 介護職員初任者研修事業所「大阪ケア学院」
- 居宅介護支援事業所「大阪ケアプラザセンター」

〒536-0014 大阪府城東区鴨野西2-5-24 TEL:06-6961-1151

- 介護付有料老人ホーム「大宮ケアホーム光」

〒535-0002 大阪府旭区大宮4-2-27 TEL:06-6953-0107

介護の現場を  
“楽しく”照らす  
広報誌  
2024 Autumn

# Delight Vol.1

特集  
日々の  
リハビリ風景

KOCHIKAI

P.1

P.2

### 巻頭インタビュー

## これからは、家族様と「チーム」になって進めるリハビリがさらに求められるでしょう

浩治会の法人設立30周年を記念して創刊された広報誌「Delight」。  
毎号、現場での取り組みや現場スタッフの声を凝縮して、介護施設のさまざまな側面を発信してまいります。  
創刊号のテーマは「リハビリ」。介護施設で約30年リハビリに携わられてきた理学療法士の上田朋子さんに、高齢者リハビリの現状や今後求められる役割などについてお話をしました。

理学療法士 / チーム、リハビリ課長  
上田 朋子  
リハビリがプロとして大切にしていくことは「この人の言うことをやってみよう」と思っている経験者が多いと思います。「そのために必要な準備をしよう」という気持ちで取り組んでいます。

#### 在宅復帰施設としての役割へ

これまでの介護老人保健施設(老健)は、リハビリ施設でも「生活の場」でもありました。そのため、利用者様の意向に沿いつつ、施設内の「生活目標」に向けた訓練やケアなどが中心に行われていました。ただ、2017年に理学療法士(在宅復帰施設)としての役割が強化されたことで、利用者様の在宅復帰を目指すことが、老健において重要な役割となりました。そうした現状のもと、私たちがリハビリ職員は在宅復帰に向け、より専門的な訓練を提案・実行しよう、従来の介護職員との連携を今まで以上に重視してリハビリに取り組みたいです。

#### 家族様にとっても大きな決断に

通院という選択肢では、家族様とのつながりも不可欠です。なぜなら、在宅復帰は、受け入れる家族様にとっても大きな課題だからです。家族様とのコミュニケーションを意識的に増やし、リハビリの進め方をチームで話し合うことが大切です。そして、自分自身(在宅復帰のために)家族様にお話ししたいのは、利用者様に「施設はどう？」など聞いていただき、もし不安な点を伝えていってからの介護職員に相談したいということです。浩治会のリハビリ家族様チームとなり、取り組み、サポートすることを今後さらに重視してまいります。

※本誌では撮影時のマスクを外しての姿を、適宜は必ずマスクを着用して公開しています。

## 特集 日々のリハビリ風景

### SCENE 1

#### 奥様が待つご自宅への在宅復帰を叶えた階段昇降リハビリ

階段昇降とは、自宅や解所を想定して、階段を昇り降りするためのリハビリです。まずは、役者の軽い階段(約10段)の昇降練習を一定期間、あるいは二、三段で昇降することを繰り返して、安全に昇降できるようにしたら、通常の階段に移行します。階段昇降は負荷の高い運動でもあるため、全課が連携しながら取り組んでいます。

【Voice】  
お気持ちに寄り添いながら、無理のないリハビリを心がけました。実は、S様の内服薬が、薬師の人数が重なったことでリハビリに遅れをきたしたことも、心理面のケアも行う作業療法士として、多面的にお気持ちに寄り添って、そのお気持ちに寄り添ったリハビリを行いました。

【Voice】  
高齢者へのリハビリでは、身体や認知症のバイタルチェックに加え、生活や気持ちの変化なども読み取るよう配慮してきました。今回のリハビリでその経験を活かすことができました。

山中 健吾  
作業療法士 / 大阪ケアホーム



## 制作 DATA

- 仕様：A4 / 8 ページ / フルカラー
- 種類：広報誌（創刊号 / 年 2 回の発行予定）
- 事業内容：介護老人保健施設の運営・訪問介護などの提供、ほか
- 制作目的：グループ内 4 施設の周知、およびお問い合わせの増加
- 配布対象：デイケア、および老健（短期）ご利用者様、ほか
- 配布方法：主に手渡し、各施設内にも設置
- 制作期間：約 3 か月半
- 料金：55,0000 円 ※印刷費込み（1,500 部 / 紙質：ヴァンヌーボー VG ホワイト 130kg）  
（ヒアリング / 企画 / インタビュー取材 / 写真撮影 / ライティング  
・リライト / レイアウト構成 / 誌面デザイン / 印刷手配 / 進行管理）

## 制作の経緯

- 【背景】 浩治会様はグループ内に、介護老人保険施設や介護付き有料老人ホームなど 4 つの施設を運営されているものの、各施設の利用者様のご家族や、他施設のデイケアご利用者様のご家族などには周知が行き渡っていないという現状がありました。
- 【ご要望】 新たに広報誌を創刊することで、グループ内の 4 施設の取り組みや各施設の雰囲気、スタッフからのメッセージなどをお届けし、施設選びの参考にしてもらいたいというご要望でした。  
さらに誌面デザインは、スタイリッシュで高級感のあるイメージで作成し、法人全体のブランディングにもつなげたいご意向でした。
- 【ご提案】 創刊号ということもあり、一冊の企画内容やページ構成などからご提案。特に重要な広報誌のタイトルは 4 案をご提案し、選んでいただきました。  
さらに、冊子の顔となる表紙案も計 5 案、制作して選んでいただきました（次ページに添付）。  
また、「高級感」を重視されていたことから、通常のコート紙やマット紙ではなく、高価格なファインペーパー（ヴァンヌーボー）をご提案。企画・タイトル案・紙質ともに、スムーズにご決定いただき、介護施設の広報誌としてはデザイン的にも、仕様のにも、他とは違ったテイストの一冊に仕上がりました。

【デザイン】 デザインは、白を基調にした余白が多めのレイアウトとするため、写真は明るめに、大きめに、そして文章は少なめにして配置。それら写真や文章などのコンテンツは、広い余白を活かしてページごとにランダムにレイアウトすることで、誌面の中で動きをつくり、同じトーンでありながら飽きのこないデザインを意識しました。

【ご提案した表紙案の別案】

